

区自治協議会提案事業 事業評価書

西蒲区自治協議会(まちづくり・産業部会)

区 分	内 容
テーマ・事業名	地域の交流を促進し、人と人があたたかくつながるまちづくり 【事業費予算 340千円】
事業目的・概要	<p>【目的】 各地域で行われているイベントへの参加や協力を通じて、様々な地域への理解と交流を深められる仕組みづくりを行うことで、「人が行き交い、にぎわいと活力があふれるまち」を目指す。</p> <p><u>「にしかん応援隊」制度をきっかけとして参画した応援隊が地域に関わることで、地域の豊かさを知ってもらう。ボランティアから始まり、ゆくゆくは地域の担い手、後継者発掘につなげていく。</u> <u>また、自分が住んでいる地域や他の地域のことを知るきっかけとしてもらう。</u></p> <p>【概要】 地域のイベントや祭りにおける担い手・運営スタッフの人手不足の解消と、地域内外の交流促進を目的として、「にしかん応援隊」(ボランティア制度)を創設。 また、にしかん応援隊の制度のPRと併せ、応援隊の活用先でもある各地域のイベントを各地域のコミュニティ協議会が紹介する「地域のイベント自慢大会(※)」を開催した。 ※大雪のため、内容を変更して別日に実施。</p>
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>○「にしかん応援隊」 ＜制度概要＞ 応援隊(ボランティア)の募集情報を「にしかん応援隊」LINE公式アカウント、西蒲区役所公式Facebook及び市のホームページに掲載することにより、地域のイベントをお手伝いしたい人(応援隊)と、人手不足で困っている地域団体(受入団体)とをマッチングさせる。</p> <p>＜対象＞ 【応援隊】地域内外のイベントに関わってみたい人、お手伝いしたい人(市民) 【受入団体】地域のイベントで人手不足で困っている団体(コミュニティ協議会等の地域団体) ※募集シートはコミュニティ協議会を通じて事務局へ提出。</p> <p>＜実績＞ ・11イベントにおいて制度を活用いただき、延べ45人が参加した。 ・アンケートからは「地域の人と交流ができてよかった」「これまで行ったことがなかった地域のイベントを知ることができ、行くきっかけとなった」「イベントの運営側として関わることができ、地域をより深く知ることができた」などの意見があった。 ・募集团体側からは、「人手不足で困っていたので助かった」「応援隊がいることで、スタッフの士気が上がった」といった好意的な意見の他、「初めてだったため応援隊をうまく活用できなかった」「通常よりも気をつかうなど、負担が増えた」などの意見もあった。</p> <p>○「集まれ！地域のイベント自慢大会」(大雪のため中止)</p>

	<p>日時: 令和7年2月8日(土) 午後1時～4時 会場: 巻文化会館 総合司会: 新潟お笑い集団NAMARA 代表 江口 歩 様 内容: 江口様によるミニ講演や各地域のイベント紹介や悩みの共有、にしかん応援隊制度のPR</p> <p>→代替開催「江口歩様による地域のお悩みトークショー」 日時: 令和7年3月1日(土) 午前11時15分～11時45分 会場: 巻文化会館 内容: 江口様とまちづくり・産業部会委員による地域の悩みの共有、にしかん応援隊制度のPR</p>
<p style="text-align: center;">事業の評価</p> <p>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</p>	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者が応援隊をきっかけとして、普段訪れない地域のイベントを知ったり、参加することにつながった。 ・イベントの運営側として参加することで、より深くイベントや地域の魅力を知るきっかけとなった。 ・応援隊の募集を通じて、地域のイベントのPRにつながった。 ・参加者アンケートより、イベント運営側へのアドバイスがもられた。 ・地域が「手伝ってほしい」という声を上げて、受入体制を整えるという動きにつながった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・徐々に制度は浸透してきているが、まだPR不足。 ・応募が少ない。募集イベントの情報が届いていない。 ・初めての試みであるため、募集側の募集シートの書き方や受入体制が不十分。 ・応援隊を活用すると、参加者側と募集側双方に楽しさやメリットが実際あるが、最初の一步のハードルが高い。 ・参加者側と募集側の双方の不安を取り除くことが必要。 ・非常にいい仕組みだが、効果が出るには時間がかかるので、長い目で見ることが必要。 <p><今後、期待される効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・応援隊のマッチングにより、地域の人手不足の解消。 ・応援隊員としてイベントに関わったことをきっかけとして、地域内外に対しての理解や交流が深まり、地域への愛着や相互交流が生まれる。 ・いきなり地域に入るのはハードルが高いと思うので、まずは応援隊をきっかけとしてイベントに関わっていただき、ゆくゆくは地域の担い手や後継者につながっていくとよい。 <p><今後の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度が活用されるよう、市民への周知が必要。 ⇒地域のイベントのチラシやポスターなどに積極的に応援隊の募集情報を載せてもらうよう、コミュニティ協議会へ依頼してはどうか。 ・コミュニティ協議会など、募集する側への働きかけが必要。 ⇒募集側をターゲットとして絞り、地域づくりに関するコンパクトなセミナーなどを開催し、併せて応援隊の目的や必要性、募集の仕方などを伝えてはどうか。 (例:「地域の人のかし方講座」「人とのつながり方講座」「持続的かつ効率的なイベントの開催講座」など)
<p style="text-align: center;">備考</p>	